

12月定例会 討論

討論は、表決の前に議題となっている案件に対し、賛成・反対の意見を表明することをいいます。

議案第93号 二本松市議会議員の議員報酬等に関する条例の一部を改正する条例制定について
議案第110号 令和5年度二本松市一般会計補正予算

議案第110号 令和5年度二本松市一般会計補正予算のうち議員経費

反対

平 敏子 議員

改正の内容は、期末手当の年間支給割合を0.1月分引き上げて95万円とするもの。10月の消費者物価指数は2.9%上昇、食料品は7%以上のプラスが11か月続いており、物価高騰により市民の生活が非常に厳しい状況の中、議員報酬を増額することは市民の理解を得られないと考える。市民の方から「なぜこの時期に引き上げるのか」と問われたとき、私は答えることができない。以上のことから関連する2議案に反対する。

請願第5号 加齢性難聴者の補聴器購入に対する公的支援制度を求める意見書の提出を求める請願書

反対

佐藤 源市 議員

社会保障政策は公正公平な制度構築が図られることが基本であり、加齢に伴う生活への影響は難聴だけではない。助成については対象年齢、基準、財源など様々な課題があり、高齢者の1つの事柄のみを対象とした制度創設は福祉政策全体のバランスを失う。今後、少子高齢化、人口減少へと向かうことが確実に予測され、社会保障の増大を念頭に置き、福祉政策の財源はもろろんのこと、他の施策とのバランスを見据え、今後、国の状況を注視することが賢明であると考え反対する。

賛成

平 敏子 議員

2020年には約602万人で6人に1人、2025年には675万人で5人に1人程度が認知症になると予測されており、国も危険因子と認め、WHOも補聴器をつけることを推奨している。加齢性難聴は認知症のリスクを高めるため、高齢化社会に入っている日本で、ここに財政措置を講じ、高齢者の補聴器所有率を高めることは、認知症予防、介護予防につながり、元気で活動できる高齢者づくりに有効な支援制度となることから、本請願に賛成する。

請願第6号 国に対し、「再審法（刑事訴訟法の再審規定）の改正を求める意見書」の提出を求める請願書

賛成

菅野 明 議員

身に覚えのない罪で服役させられ、場合によっては命まで奪われる「えん罪」ほど恐ろしいものはない。裁判をやり直す再審手続きを定めた規定は、刑事訴訟法のわずか19条のみ。再審制度の問題点は、捜査段階で集めた証拠を開示しないことと、検察官の抗告権（上訴）で、都合の悪い証拠を隠しておきながら、即時抗告や特別抗告を行うことは許されない。早急な法整備は待ったなしで、えん罪被害者を救済するため賛成する。

請願第7号 健康保険証廃止の中止を求める請願書

反対

斎藤 徹 議員

マイナンバーカードについては、①世界的には、新型コロナウイルスに対応する際の給付やワクチン接種に大きく寄与したこと。②日本は国際的に政府のデジタル化が非常に遅れていること。③懸念されているマイナ保険証の個人番号漏えいに関する件については、現状は暗号化されており解読が難しくなっていること。④仮にマイナンバーカードを取得していなくても、健康保険加入者としての証明が出来ること。以上のことから反対である。

賛成

斎藤 広二 議員

マイナンバーの総点検によって数万件のひもづけ誤りと医療費の窓口負担割合の誤登録が2万件に及んだことが判明した。マイナ保険証の利用率はわずか4.5%。全国保険医団体連合会の調査でも半数の医療機関でトラブルが起きていたという結果が出ている。マイナ保険証の登録をしない人は国民の44%にもなる。健康保険証は国民皆保険の根幹で、医療機関の窓口で見せるだけで保険診療が受けられる。、現行保険証を残せば今問題となっているすべてが解決するので賛成する。

